

もしもブロリーが人理  
修復に挑んだら in 第二  
部

太臓P

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので  
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を  
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

悟空「オツス！ オラ悟空」

悟空「みんな待たせちまつてすまねえ、あの――」

ならず者「申し上げます！ b r o l l y o r d e r が帰つてきました!!」

ベジータ「ダニイ!?」

悟空「てめえ、オラのセリフ奪うんじゃねえ!!」ブン

ならず者「ア”ア”アツ”」

ベジータ「さつそく、異聞帯を成敗しに向かう後に続けブロリー」

ブロリー「はい」

??? 「父さん!! このスーザイケメン——」

ベジータ 「臆病者はついて来なくともよい」

♪BGM♪ ポコピー♪

ブロリー 「フン」 ブン

ピッコロ 「クソマア!!」

悟空 「ワクワクしてきたぞう!!」

モア 「第二部になつても一生懸命頑張ります」

バラガス 「モア……残念なんだが」

モア 「ま、まさか!?」

バラガス 「ああモアお前の思つてはいる通り……今回もお前の出番などない!!」

モア 「うわアアアアアアアア!!」

バラガス 「それでは、新作です。何なりとお使いください」 腐☆腐

# 目 次

(地獄の) クリスマスパーティー編 中編

54

b r o l l y o r d e r 設定集	—	—	—	—	—	—	—	—	—
キャラ紹介 カルデア編	—	—	—	—	—	—	—	—	—
キャラ紹介 ドラゴンボール編	—	—	—	—	—	—	—	—	—
キャラ紹介 サーヴァント編	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一周年記念 深海電腦樂土 S.E.	R	19	10	4	1	—	—	—	—
A.P.H キアラ攻略R.T.A	—	26	—	—	—	—	—	—	—
第二部序 クリスマスパーティー準備編	—	—	—	—	—	—	—	—	—
前編	32	—	—	—	—	—	—	—	—
クリスマスパーティー準備編 後編	—	—	—	—	—	—	—	—	—

39

48

(地獄の) クリスマスパーティー編 前編

# b r o l l y o r d e r 設定集

この作品での『ドラゴンボール』について

この作品では、平行世界で大人気の『ドラゴンボール』という作品が彼らの英雄談と相成りまして、人々の願いや祈りによつて、英靈の座に登録された。なおその際に一部の多くの人々によつて、無期の怪物を付与される。

なおぐだ子が召喚できた理由として、恐らく面白いこと第一であるという考え方から彼らという存在を呼び出せたでは?とカルデアの職員たちは考えているが、詳しいことは解明されていない

無喜の怪物（ニコ○コ）

生前の行いや、イメージや風評被害などによつて、存在そのものや在り方などをを捺じ曲げられ能力や姿が変貌してしまってスキル。その人物がどれだけ凄い人物であつてもネタにされてしまうことで、真相やキャラの在り方を捻じ曲げられたものを指すスキル。このスキルを外すことは出来ない。

例ベジータ

A君「ベジータって誇り高いサイヤ人の王子で格好いいよね」

B君「確かに格好いいけど、あいつヘタレでロリコンだよね!!」

A「せやね」

見たいに、ネタにされて真実が捻じ曲がるスキルです。

気

ブロリーたちドラゴンボール勢が使用する特殊な力。これは魔術師たちの使う魔術とは異なる力である。『ドラゴンボール』の世界では誰にでもある力とされていたが、あくまでもそれは『ドラゴンボール』の世界での話であり、この世界には本来は存在しない力である。

ぐだ子とマシユが使う事が出来る理由として、気を使えるブロリーたちとぐだ子の間に繋がりが出来た事で、ぐだ子は、『ドラゴンボール』の世界との繋がりが生じて、可能となつた。

……端的に言えば、ご都合主義です。

もしぐだ子以外に彼らを召喚するものが現れれば、その人物も気を会得する事が可能になる

英霊の座

本来であれば、ブロリーたちは英霊の座に刻まれてはいるが、召喚される事は不可能とされるサーヴァントである。しかしカルデアの英霊召喚システムの未熟さとぐだ子

の狂運によつて召喚されてしまつた。

ブロリーたちの力は一方間違えれば、この星を消滅させられる力を有している。ぐだ子がたまたまブロリーたちを制御出来てゐるだけで、もし制御が出来なくなれば間違いなくこの星は失くなつてしまふ。その為彼らがこの星に存在する限り、人類の持つ破滅回避の祈りである「アラヤ」と、星が思う生命延長の祈りである「ガイア」によつて、抵抗力が働き、彼らに対抗できる力を持つたサーヴァントが召喚する事が可能となつた。  
……端的に言えば、ご都合主義の結果、敵も『ドラゴンボール』勢を召喚することが可能であるという事である。

## キャラ紹介 カルデア編

今作のサーヴァントたちの戦闘能力について

個人的な見解ではありますが、サーヴァントたちの戦闘能力は、全盛期のピツコロ大魔王～マジユニアレベルであると、FGOのアニメやfateの作品を観ていて感じました。

なので、今作ではサーヴァントの実力は以下のようにさせて頂きます。

トップクラスのサーヴァント（ギルガメッシュ、アルトリアなど）は、全盛期のピツコロ大魔王～マジユニアレベル

通常のサーヴァント（黒ひげ、ビリー・ザ・キッドなど）は、ヤジロベー～全盛期のピツコロ大魔王

戦闘が苦手なサーヴァント（マタハリ、コルデーなど）は、亀仙人との修行前の悟空～亀仙人との修行後の悟空

グランドクラスのサーヴァントは、マジユニアレベル～ラディツツレベル

あくまでもこれは作者の個人的な見解ですので、実際とは異なる点も多々あると思いますが、今作ではこうさせて頂きます。

悟空たちに關しては、サーヴァントという枠組みに無理やり押し込められている事で、本来よりも実力がかなり押さえられている（それでもグランドクラスのサーヴァントレベルはある）一定時間ではあるが、本来の力を解放することが出来る。ちなみにブロリーの場合時間制限はないが、理性を失い暴走をする

### ぐだ子

今作の主人公ヒロイン17才の高校生であり、バイト先をクビになつたことで、新しいバイト先を探していたところをスカウトされカルデアにやつて來た。ちなみに家系的には、魔術とか一切関係がないので、魔術的知識はZeroである。

性格は基本的には、明るく元氣で、前向きで誰とでも話せるタイプである。しかし、どんな状況でも面白い事を優先してしまう欠点があり、それでよく自分の首を締める事が多い。

基本はボケだが、ブロリー達相手には、ツッコミもする万能なキャラである。

戦闘面は、護身術に間接技を極めただけの（自称）かよわい乙女（笑）である。魔術師やサーヴァントにとつては、か弱い乙女で間違えなかつたのだが、カルデアにて召喚されたピッコロと悟空による過酷な修行と特異点での経験によつて、神様との修行を終えた悟空レベルに。やつたねぐだ子、これでか弱い乙女とは誰も言わないね。

これだけの実力を手に出来たのは、彼女の潜在能力の高さによるものが大きいのだが、まだその潜在能力は完全には解放することは出来ていない、今はぶちギレた時のみ真の力を解放することが出来る悟飯タイプ。もしその切っ掛けがあれば、あるいは……

### マシユ・キリエライト

ぐだ子にとつて、可愛いくて頼りになる後輩である。デミサーヴアントと呼ばれる少女であり、クラスはシールダーと呼ばれるエクストラクラスのサーヴアントであつたが、終局特異点での戦いの中で、デミ・サーヴアントとしての力を失ってしまう。

カルデアにて召喚されたベジータの元で修行をしていたマシユであったが、サーヴアントとしての力を失つた今でも続いており、以前よりも劣るがそれでも初期の天津飯レベルまで力を取り戻している

### オルガマリー／オルガロリー

カルデアの所長であり、パラガスとぐだ子の策略によつて、小学生ぐらいの姿になつてしまふ。ピンチになつたりするとヘタレになつてしまふ。魔術面に関しては、優秀であるのだが、レイシフトの適性を持つていなかつた事や、自分は一度も認めて貰つたことがないなど多くのコンプレックスを持つている。一番信頼していたレフに裏切られて殺されたことで、一度全てに絶望していた所を救つてくれたぐだ子に心を開いているが、彼女にオモチャにされたり、弄られるので絶対に言わない。

ろりの姿には、かなり不満もあるのだが、もう諦めてもいる。

かつてオルガマリー・アニムスフイアの時は、その抱えていたコンプレックスとプライドによつて、孤立していた彼女であつたが、オルガロリーちゃんになつた事と、特異点でのぐだ子たちの活躍<sup>暴走</sup>によつて周囲の職員たちとの仲は良好なものとなつた。

ぐだ子たちとの過ごした時間によつて、少しずつではあるが、彼女の在り方は変わつていつた。ぐだ子やマシユ、そしてカルデアの職員たちの未来についてよく考えるようになり、特に人でありながら、サーヴァントと互角かそれ以上に戦えるぐだ子のことを心配しており、彼女を時計塔や協会そして薄汚い魔術師たちから守れるように、動いているのだが、ぐだ子本人は気付いていないのであつた。

ちなみにブロリーたちサイヤ人について、時計塔に報告するべきかどうかで、胃を痛めているらしい。

オルガロリーとなつた現在は、オルガマリー・アニムスフイアはレフ・ライノールによつて殺され死亡した。その後カルデアにて彼女を元にしたホムンクルスが発見されたという設定になつてゐる。

### ドクターロマン

カルデアでドクターとして雇われている。所長とは昔からの知り合いのようで、彼女

とダ・ヴィンチちゃんには厳しいことを言うことがある。

基本的には頼りになる人物であるはずなのだが、ブロリー達がいることで、頼りになる場面が少なくなつてしまつた苦労人。ネットアイドルの熱狂的なファンだつたり、その言動や行動からぐだ子的には引きこもりの実の兄を思い出して、ついお節介をしたくなるらしい。

一応オルガマリー・アニムスフイアが死亡した事になつており、その為所長代理という肩書きを持つてゐるのだが、基本オルガロリーがいるため、忘れられているのだが、彼女が胃痛で頻繁に倒れたり、現実逃避に引きこもる度に指揮を執つてゐる。

終局特異点に置いて、彼の正体が明かされたのであるが、ブロリーたちに慣れたカルデアでは、驚きはしたが、些細な事扱いされてしまい。深く落ち込んでいた。

オルガロリー同様、ぐだ子たちの事を心配しており、彼女たちの為に裏で動いてゐるのだが、ぐだ子にはまったく伝わっていない。

### ダ・ヴィンチちゃん

カルデアに呼ばれたサーヴァントであり、クラスはキヤスター 美女の肉体をしてい  
るが、しかし彼女は男だ……男なんだ!!

カルデアに召喚された当初は、すぐに退去するつもりであつたが、カルデアやロマニ・

アーキマンの存在によつて、カルデアに留まることを決める。

そして現在、技術局特別名譽顧問として技術部のトップを務めぐだ子たちの為に様々なアイテムの提供をしたり、ベジータの無茶振りに答えて重力制御装置を開発したりと多くの発明が存在する。

また所長代理補佐という役職で、苦労に絶えないロマニの事をからかい半分に手伝つてゐる姿がよく観られるらしい。

……時折科学者（タコ）と二人で何やら開発しているようで、それはまるで何かに備えて用意しているようである

# キャラ紹介 ドラゴンボール編

ブロリー「バーサーカー」隠し属性：獣（サイヤ人）

属性：混沌・悪

時代：エイジ737年～767年

地域：新惑星ベジータ

筋力：★ 耐久：★ 俊敏：EX 魔力：E 幸運：EX 宝具：★

この物語において欠かせない人物であり、最強のサーヴァントでございます。クラスはバーサーカーであるが、通常状態でも、暴走状態でも会話がしつかりと取れる優秀なあサーヴァントである。

しかしサーヴァントという形で召喚されたゆえに、本来の力を出せなくなつており、出そうとした時暴走してしまう。

その際はマスター・マシユ、オルガロリーなどの可愛いモノ以外の目に入つた全てを破壊尽くそうとしてしまう。暴走した時はパラガスの制御装置プラスぐだ子の令呪がないと止められないの、ない場合はスッキリイするまで待つしかない。

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティにて退去しており、ぐだ子たち

カルデアから姿を消している。しかしこのカルデアで、ぐだ子たちと紡いできた糸は続いており、何かあつた際は必ず助けに来ることを誓う。

代表的な宝具はイレイザーキヤノンとスローライングブラスターである。

パラガス「ライダー」隠し属性：獣

属性：混沌・悪

時代：エイジ不明～767年

地域：新惑星ベジータ

筋力：A+ 耐久：★ 俊敏：A+ 魔力：E 幸運：B 宝具：★

ブロリーと共に召喚されたサーヴァント。ブロリーには劣るけども、彼もまた欠かせない人物である。基本的には胡散臭い笑みを浮かべている（自称）ダンディーなおじさん（笑）である。

役割としては、知将的な立場にいることが多く、自分の思つた通りに進むとお笑いものだつたぜえと煽り、失敗すると何もかもがおしまいだと精神崩壊する。常に大人のお姉さんとの絡みあいしか考えていない変態で、追い込まれたときに、避難する準備だあと宣い、何処からともなくポットを取り出すので、ぐだ子達からの信頼は限りなく薄くなっていることに本人は気づいていない。

クラスはライダーであり、自由自在に一人用のポットを召喚することが出来る。ちな

みにだが、巨大な宇宙船も召喚することが出来るらしいが、一度も使った事がないので、誰も信じていない。

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

退去する間近まで、メドウーサ、マルタそしてカルデアスタッフたちを口説いており、その際ぐだ子を怒らせて、ブロリーとぐだ子の手で消滅させられる。

宝具はポツト<sup>親父</sup><sub>ス</sub>・キヤノン<sup>テ</sup>

おのが死の原因を宝具によつて、攻撃へと昇華され、おのが命をかけて敵に攻撃をする。宝具を使用するときには必ずブロリーが居ないと発動出来ないので、ブロリーが居ない状態で召喚された場合、この為だけにブロリーが召喚される。ちなみにブロリーが氣弾を撃つた方が威力がある。

ベジータ「アーチャー」隠し属性：獣

属性：混沌・悪

時代：エイジ732年～789年（GT最終回）

地域：西の都

筋力：A+++ 耐久：★ 俊敏：A+++ 魔力：E 幸運：E 宝具：★

ブロリーたちが召喚された事によつて、連鎖的に召喚されたサーヴァントの一人。ク

ラスはアーチャーで、気弾を撃つことを主体としている戦闘スタイルからアーチャーとして英靈の座に登録されている。

カルデアではマシユの師匠（本人は師匠ではなく、ティーアチャー）としてマシユを厳しく鍛えたきた。その為マシユからの信頼は厚いが、ぐだ子の嫉妬の対象として、理不尽な目に遭うことが多々ある。

またカルデアでは、料理長としてマルタと共にカルデアにて食事を振る舞ってきた。お好み焼きが得意。

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティーにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

退去する間近にオルガロリーに迫っていたところを、オルガロリー、ぐだ子、ブロリーによつて消滅させられる。

宝具は、ビッグバン・アタック、ファイナル・フラッシュ等

トランクス 「セイバー」 隠し属性：獣

属性：混沌・善

時代：エイジ766年～789年

地域：西の都

筋力：A++

耐久：★

俊敏：A++

魔力：E

幸運：E

宝具：★

ブロリーたちが召喚された事によつて、連鎖的に召喚されたサーヴァントの一人。最優のクラスとされるセイバーの名に恥じぬ確かな実力を持つているが、そのうざすぎる言動や態度から、誰にでもスルーされている。

クラスはセイバーであるが、アサシン以上の気配遮断能力を持つている。

今作では、スルーされ過ぎた結果、彼という存在を忘れ去られてしまい。その為第二部の開始直前のクリスマスパーティーにて退去しているものと考えられる。

宝具はファニッシュ・バスター、魔封波等

孫悟空／カカロット／クズロット「アサシン」隠し属性：獣

属性：混沌

時代：エイジ737年～789年

地域：パオズ山

筋力：A++ 耐久：★ 俊敏：A++ 魔力：E 幸運：E 宝具：★

ブロリーたちが召喚された事によつて、連鎖的に召喚されたサーヴァントの一人。クラスはアサシン、本来ならグランドクラスのランサー・ライダーとして呼ばれるのが、無喜の怪物（ニコ○コ）によつて、アサシンとして呼ばれた。

この世界に呼ばれた悟空は、この世界ことよりも飯を食べる事を優先し、飯を食わせてくれるのなら簡単にぐだ子たちを裏切る、まさにクズロットである。

ちなみにカルデアでは、基本的にベジータに飯を集るか、メドウーサに飯を集るか、カルデアスタッフに飯を集めるかという感じで、たまにピッコロと共にぐだ子を鍛えていた。

無喜の怪物によつて、本来の彼の本質は奥底に封じ込められている。だがしかし彼の中には、確しかに存在している。それが目覚めた時は、彼が一番頼りになるかも知れない。

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティーにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

彼は退去される瞬間も飯を食うことを辞めず、飯を食いながら退去していく姿に、ぐだ子たちも悟空らしいと笑つていた。

宝具はかめはめ波、元気玉（本来の姿限定）、瞬間移動、太陽拳、魔封波等  
ピッコロ「キヤスター」隠し属性：天（神様と同化した為）

属性：混沌・善

時代：753年～789年

地域：天界・地獄（GT）

筋力A+ 耐久★ 俊敏：A++ 魔力：EX 幸運：D 宝具★

ブロリーたちが召喚された事によつて、連鎖的に召喚されたサーヴァントの一人。ク

ラスはキヤスターであり、彼が持つてゐる仙豆を食べると、たちまちに怪我を直すことが出来る不思議な豆を大量に持つてゐる。

キヤスターとして呼ばれた事によつて、彼／神様が使用した不思議な力は魔術としてこの世界では扱われるようになる。

カルデアにてぐだ子の師匠として、ぐだ子を厳しく鍛えてきた。その為基本的にはピッコロさんに頭が上がらない。ぶちギレたぐだ子を六割の可能性で止められる。（完全に止められるのはマルタとオルガロリーだけである）

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティーにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

退去する直前、ぐだ子に仙豆と大量の服（100kgの重り付き）が渡され、嬉しさの余りに涙を流していた様子が見られた。

宝具は魔貫光殺砲、仙豆、十円等

（宝具として魔貫光殺砲を使用する時のみ十円にならずに発動出来る。）

科学者（タコ）「キヤスター」隠し属性：獣（タコ的な意味で）

属性：混沌・悪

時代：不明／エイジ767年

地域：新惑星ベジータ

筋力：E 耐久★ 俊敏：E 魔力：E 幸運：E 宝具：★

ブロリーたちが召喚された事によつて、召喚が可能となつたサーヴァント。クラスはキヤスターとして召喚されたが、魔力も氣も最低限のランクである。

しかし彼には、大抵の物を発明することが出来る力を有しているまさにご都合主義の塊のような存在である。

本来の科学者（タコ）は、ブロリーの力を制御する装置を発明した人物として扱われ、その詳細な人物像について描かれる事はなかつた。

しかしサーヴァントになつたことで無喜の怪物（ニコ○コ）を付与されたことによつて、彼は大抵の物を発明することが出来る究極の力を手にしており、まさしくご都合主義の塊である

カルデアに召喚された彼は、その科学力を持つて、ダ・ヴィンチちゃんとよく部屋に籠つており。様々な発明品を作る所以であるが、ぐだ子たちにとつても、敵にとつても厄介な代物である

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

## 宝具はご都合主義の塊

その名の通り何でも発明することが出来る宝具である。（しかしブロリーに対しても制御装置以外は基本的に無意味）

何でも発明することが出来るが、本来ならそれ相当の時間も掛かるのだが、パラガスがいる事によって、必要な時に用意されているという展開に運ぶことも可能である。

発動条件は、パラガスの「私は科学者に○○を自在に制御できる装置を作らせた……」をトリガーに科学者から発明品が渡せられる。

ちなみにぐだ子たちは、そんな事をまったく知らない。

# キャラ紹介 サーヴァント編

## メドウーサ

ぐだ子が、オルレアンに向けて召喚を行つた際に召喚されたサーヴァント。クラスはライダーであり苦労人の一人。

何故かは分からぬが、悟空によく飯を集られる。カルデアに呼ばれた当初は君子危うきに近寄らずのごとく、ブロリーたちは少し距離をとつていたが、現在では諦めている様子。

頼まれた時はぐだ子の修行の相手をするのだが、ぐだ子の成長のスピードには驚かされた。そして、その力のせいで何かに巻き込まれるのではと心配しているが、巻き込まれるより、自分から向かいそうだなと思つてしまつたのはここだけの話。

ぐだ子に対しては、信頼しているし、ピンチの時は身を挺して庇う気ではあるが、ぐだ子のピンチの場面がブロリーが暴走する以外には思い付かないらしい。

静かな環境などを好む彼女であつたが、カルデアでの生活で騒がしいのも悪くはないと思うようになる。ただし巻き込まれるのは死んでも嫌だそう。

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティーにて退去しており、ぐだ子たち

カルデアから姿を消している。

退去する直前、寂しさを覚えるも、またぐだ子たちとは会う予感を覚える

マルタ

ぐだ子が、セブテムに向けて召喚を行つた際に召喚されたサーヴァント。クラスはライダーであり苦労人の一人。

カルデアでは、オルガロリーと共にまとめ役兼説教役として頼りになる存在であった。オルガロリーとは違いストレスで倒れたり引きこもることなく、最後までツッコミを入れ続けた姿にカルデア職員一同尊敬の念を抱く。

またベジータと共にカルデアでは料理を作つており、料理長であるベジータには内緒だが、マルタの方が料理が旨いと皆思つていてる。

ぐだ子に対しては、世話の掛かる妹のように思つており、よくぐだ子の修行方針について、ピツコロと揉めている姿が見られた。（マシユに関してもやり過ぎている場合ベジータに文句を言いに行つていた）またぐだ子の修行にはなるべく付き合う様にしており、日々成長していく、ぐだ子の姿に嬉しさと悪い奴等に狙われないか心配している。

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

退去する直前、ぐだ子に加護があるように祈つていた。

清姫

ぐだ子がセブテムに向けて召喚を行つた際に召喚されたサーヴァント。クラスはバーサーカーであり、ぐだ子を安珍の生まれ変わり<sup>運命の相手</sup>と思い込んでいる。カルデアでは常にぐだ子の事を見ている。(ぐだ子自身初めの内はびびつていたが、慣れたので平気だそうだ)

バーサーカー故に彼女の思考はかなり狂化されており、ぐだ子は運命の相手であり、自分は彼女と結ばれる為に召喚されたと思い込んでいる。

その結果ぐだ子を妹扱いするマルタに對して、マスター<sup>ぐだ子</sup>の姉であるなら、それは自分のお義姉さんなのでは?と、それ以降マルタを自分のお義姉さんだと思つてしているので、言うことを聞く。

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティーにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

退去する振りをして、居残ろうと画策していたが、バレて退去することになる。

注意これ以降、本編未登場サーヴァントになつておりますので、それでも大丈夫な方は進めて下さい m ( ) m

エドワード・ティーチ

オケアノス終了後召喚されたサーヴァント。クラスはライダーであり、同士であるベ

ジーラ、実の兄に（性格が）似てているという事でぐだ子との仲は良好である。

カルデアでは、何処で手に入れたのか不明の怪しいビデオやファイギュアを夜な夜なベジータと観賞しているらしく、オルガロリーとマルタの捜索によつて、盗撮ビデオの破棄をされた。

ぐだ子との仲は良好であり、まるで別の世界で知り合いだつたのではと冗談半分で言つたら、その日から暫く熱視線（殺意）を向けられたらしい。

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティーにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

退去する直前までベジータと共にオルガロリー所長にセクハラをしようとした事で強制的に退去となつた

諸葛孔明

ロンドン終了後召喚されたサーヴァント。クラスはキヤスターであり、擬似サーヴァントと呼ばれる特殊な英靈である。

基本的には憑依先の『ロード・エルメロイⅡ世』が主人格である為、ロンドンにて判明した敵の正体、ブロリーたちの存在、オルガロリーが聖杯によつて作られた身体であると一気に知らされて、胃を痛める。オルガロリー共々仙豆にはお世話になる。

時計塔について詳しい彼は、ブロリーたちや氣を使えるぐだ子とマシユについて、そ

のまま報告したらどうなるのかをハツキリと理解していた。その為彼らは今日も報告書を書き続けるのであった。地球の未来は君たち次第だ!!

ぐだ子に関しては、自分の教え子たち同様かなりの問題児として頭を抱えている。たちが悪いことにモンスター・ペアレントが側にいるので、尚更である。

オルガロリーに関しては、何か思うところがあるのか、顔を会わせずらそうにしている。その際でぐだ子にオルガロリーちゃんに惚れたのでは?と噂が広まり、オルガロリーや女性スタッフから嫌われ、一部男性スタッフや黒髪とベジータから同士扱いされる。頑張れ先生!!

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティーにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

退去する直前、カルデアから解放された嬉しさに涙を流すのだが、別れるのが悲しいのだと勘違いされてしまい、また会おうねと<sup>死刑宣告される</sup>言われる。

李書文

アメリカ終了後召喚されたサーヴァント。クラスはランサーであるが、拳法の達人である。カルデアには自分よりも強い者が大勢いることに子供の様にはしやいでいた。よくピツコロやマルタ、悟空、そしてぐだ子にも試合を申し込んでいる。マルタとのギリギリの戦い、ピツコロや悟空との圧倒的強者との戦い、そして急激に成長していく

ぐだ子との白熱した戦いにかなり満たされている。

ちなみに一度ブロリーに挑んだ時がありその時は死を覚悟したらしい。（カルデアもまたブロリーが暴走していた時にパラガスが気絶していた為、別の意味でも死を覚悟したらしい）それ以来ブロリーに挑むのは禁止になつた。

ぐだ子に対する対しては、マスターとしても尊敬している。ぐだ子の真つ直ぐさには眩しさを感じているらしく、その成長が楽しみらしい。

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティーにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

退去する前日にマスターと本気で戦える事が出来たので満足して、退去していつた。

B B

S E. R A. P Hでの戦い後カルデアに着いてきたサーヴァント。ムーンキヤンサーという特殊なクラスで顕界した。ぐだ子以外S E. R A. P Hでの出来事を覚えていないため、いつの間にかぐだ子に召喚されたサーヴァントとして扱われる様になる。無論オルガロリーとマルタに勝手に召喚するなど怒られるぐだ子であつた。

カルデアに現れた彼女は、ぐだ子に対して『人類を救う道具』ではなく、『人類を惑わしたり、時に助けたりする悪魔』と語るのだが、ぐだ子に『ブロリーも悪魔を名乗つているよ』と言われてからは、悪魔とは言わなくなつた。

ぐだ子はいじりがいがあるし、どんな時でも諦めない所とか、何処か似た雰囲気を感じるので、嫌いではないが、常識が通用しないサイヤ人とかは嫌いらしい。特にタコは見たら、消滅させてやりたいと思うぐらいに。

今作では、第二部の開始直前のクリスマスパーティーにて退去しており、ぐだ子たちカルデアから姿を消している。

彼女が素直に退去していく事に怪しんでいる者が数名いるが、ぐだ子に渡したタブレット以外彼女が存在した痕跡は存在しないのであつた（ハート）



リゾートイベントで先輩のハートも驚異的なRTA、はあじまるよー！

ムーンセルからの情報を解析している時間を利用して、少し説明を少しうき向を変えて、新生BBちゃんをお届けです（ハート）

何処が新生なのかといいますと、今回はこのムーンセルからの指令を受けた「殺生院キアラの対処」に対して、最速で問題解決してみせます??

それでは、BBちゃんが、S E . R A . P H に派遣されたところからスタートです。

それでは早速キアラさんの元に……の前にキアラさんにサルベージされたわたしの元に向かって、休戦協定を結んでおきましょうね

結んでおかないとキアラさんに密告されてしまうかもしれません（一敗）

……はい、無事協定を結ぶことに成功しました。いやあー大変でしたね。ちなみに協定を結ぶ様子ですが

皆様のために……カットさせて頂きました

という訳で、キアラさんのいる協会に……イクゾー！デツデツデデデ！（カーン）

……はい、という訳で無事協会に到着しました。そしてあの邪悪な笑みを浮かべてい

るのが、快樂天こと殺生院キアラさん。

見てろよ、その笑みを、昇天させてやりますからね（ハート）

それではキアラさんに話しかけて、進めていきますよ。

「こんな所にいたんですねキアラさん」

「あら貴方は——」

「そんな事はどうでもいいです。それよりもわたしの仕事は聖杯戦争の管理でいいんですね？あくまでも中立に、この戦いを盛り上げると」

「ええ——以下略」

うんうん、素晴らしい理想ですね。貴方の理念には共感しました。

「では、早速準備に取りかかりますね。それでは」

さて、聖杯戦争の様子を眺めますか。

：カルデアの皆さんが来るまで、まーだ時間がかかりそうですかね  
あまりにも暇なのでえ：

またまた皆様のためにいゝ

（気になつてゐるであろう）キアラチャートについての説明をさせて頂きますね（ハーハー）

ト

まずキアラさんを倒す為にも、まずはキアラさんのインチキチートスキルを何とかし

昇天させる

なくてはいけません（二敗）

視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚。五感すべてを誘惑し、ひとつでも色香に惑えば、妄信的な信者にする『五蘊黒縄』

『知性体なら問答無用でテクノブレイク』こと、『ロゴスイーター』等々 e t c . . . . 本当にもう頭に来ますよ～

まあ逆に言えば、このインチキチートスキルを何とか無効化すれば、キアラチャートはクリアしたような物なんんですけどね

カルデアの皆さんのがS E . R A . P H に到着したら、キアラさんの目もそつちに向くはずですので、その間に裏で準備をしておけば、後はカルデアの皆さんのがキアラさんを倒してくれることでしょう。

それにもし失敗してもリセットできますしね。まあそんな事はあり得ないんですけどね

完璧ですね。風呂入ってきます

：つと、解説している間にカルデアへの通信する準備も完了しましたね。それでは早く速イキますよ～イキますよ～イクイク

ヌツ！（到着）

「人類のみなさーん。あいかわらず、お間抜けな顔をさらしてますかー？」

『?』

良いですねえ、掴みはバツチリですね（ハート）

……さて説明も完了しましたし、じやけんS.E. R.A. P.H.に行きましょうね。セン

パイ～??

……はつ？ 何ですか、そのハイテク機械は？えつ？これさえあれば未来すらも存在証明ができる？なにそれあり得ない！？

……ま、まあ良いでしよう、無事センパイ方もS.E. R.A. P.H.に到着した訳ですしね。それじゃあ悪役ムーヴで、キアラさんの目を欺きつつ、センパイ方にキアラさんを倒し為の素材を集めて貰いますか――って、な、なんなんですかあのサーヴァントは！？

普通にリップを消滅させちゃいましたよ！？ というかS.E. R.A. P.H.に呼ばれたサーヴァントたちが千切つては投げ、千切つては投げ状態とか……あーもうめちゃくちやだよ

……つてファツ！？

あのサーヴァントの攻撃が、天球シミュレーター室の方に飛んでいつていませんか？ デデーン

……いや、まさか、そんな事はないですよね。うん。きっと見間違いです。もう一度見てみればそんな事は

セラファイクスの心臓部だつたもの。

( 口。 )

あつ、キアラさんが現れました。

キアラさんがビーストに変化しました。

ヤバい、まだ準備も整つていないのに、何とかしてセンパイたちを回収しないと――

「魔封波アアア!!!」

「えつ、ちよつとお待ちにイヤアアアアアアア」

キアラさんが吸い込まれていく

( 口。 )

こうして、BBちゃんのキアラチャートは終了したのでした。

??? 「嘘でーーす。全て嘘なんです」

その後BBちゃんはカルデアに来ることになるのだが、それはまた別のお話である

「ちゃんちゃん」

ちなみにBBちゃんが再走したお陰でちゃんとチャート通りに倒すことに成功しました。

## 第二部序 クリスマスパーティー準備編

2017年12月26日

わたくしこと何処にでもいるか弱き乙女のぐだ子の職務は全て終了した。  
「う―――つそです」

特異点はすべて血祭りにし、人類の危機は去つた。

「このイケメンスーパー」

レイシフトは凍結され、カルデアに召喚されたサーヴァントも、その役目を終えたものとして契約を解除し、退去。

カルデア所長代行補佐であるレオナルド・ダ・ヴィンチを除き、サーヴァントはすべて、地上から消え去つた。

誰か忘れちや

三  
ハツ

•

\* \* \* \* \*

• • • • •

??? 「オ————イ、朝ですY○○○○」

フオウ 「……オウ。フオウ、フオウ……」

ぐだ子 「……」スヤスヤ

??? 「しようがないな……このイケメンスープートランク——」

……目覚まし……うるさいなあ。

ぐだ子 「……フン」ブン

??? 「——ウワアアアア」

……あれ? 今なにかをぶん殴つた気がしたんだけど……気のせい?

??? 「ハツ!?

フオウ 「ピヨン

ぐふつ!?は、腹に衝撃が、な、なんだ敵襲か!?

フオウ 「フオウ、フオーワ?」

いや待て、このモフモフな s i l h o u e t t e は…?

ぐだ子 「フオウじやねーか!」

びっくりさせやがつて、モフモフしてやる!!

フオウ 「フオ、フオウ!?」ジタバタ

ぐだ子 「反抗する氣か!」ワシワシ

勝てる訳がないだろ

と私がフオウくんと戯れています

ウイーン

私の部屋のドアが開いたのであつた。そしてそこに現れたのは……

マシユ  
「失礼します、先輩……なんと、すでにお目覚めでしたか」

ぐだ子「うん、おはようマシエ。今田も元気そうで何よりだよ」ワシリヤ

この奴の名前はマジニ・ギリエテイト  
和の頼りになる後輩である。ある事情から

なのである。

マシユ  
「おはようござります、先輩。昨日はクリスマスの片付け、お疲れ様でした」

ぐだ子「ああ……昨日は本当に疲れたよ……」

いやあマジで

マシユ「オルガロリー所長の粋な計らいで、皆さん、今日は臨時休暇、という事です」  
まあ昨日は所長胃薬の代わりに仙豆を湯水のように食べていたからね

⋮

2017年 12月25日

ここはカルデア

人理焼却という未曾有の危機から、無事に人理を守ることに達成したぐだ子たちカルデアは、亞種特異点なるものもついでに修復血祭りにしたしたのであつた。そして今日はクリスマス、最後のパーティーが始まろうとしていた

私の名前はぐだ子

色々な事があつて人理修復することになつた私だつたんだけど、召喚したサーヴアン  
トたちの力もあってなんやかんやと人理の修復したのであつた。……まあ同時に人理  
処か地球という星の危機が一杯だつたけどね。

ゴホン……そんな些細な事は置いておいて今日はクリスマスパーティー。一杯楽し  
んじやうぞ!!

オルガロリー「なにニヤケているのよ、そんな暇があつたら手伝いなさいよね、この  
馬鹿ぐだ子!!」バシツ

おつふ。ナイスブロー

ぐだ子「しょ、所長。やつぱり世界狙えますよ」プルプル  
オルガロリー「うつさい、良いから手伝いなさい」

ぐだ子「はあーーい」ヤレヤレ  
しようがないなあ

???  
「ハツ!」

彼女の名前はオルガロリーちゃん。

オルガロリー「ギロリ

ゴホン、彼女の名前はオルガマリー・アニムスファイア。亡きお父さんの跡を継いで、このカルデアの所長となつたんだけど、なんやかんやあつて、所長の座を辞めることになつて、その愚痴を丸一日聞くことになつたんだけど、それはまた別の機会に

そうしてパーティー開始の準備をしていると

ロマン「やあぐだ子ちゃん、元気そうで何よりだよ」（トオイメ）

疲れきつた顔のドクターが現れるのであつた

ぐだ子「ドクターの方は死にかけ……ゾンビみたいだよ」

ロマン「ははは、まあそうかも知れないね」（トオイメ）

えつ、ツツコミは!?

ダ・ヴィンチちゃん「許しておくれよ、ぐだ子ちゃん。ロマニの奴も大変なんだよね、

色々とやることが多すぎるからね」

……ああそなんだ

オルガロリー 「そうよ、ぐだ子。あんたたちの活躍<sup>破壊</sup>の様子を全部そのまま時計塔に提出したら、どうなるか分かるでしよう?」

えーーっと

「腐☆腐。大人のお姉さん、私の息子はいかがかな?」

「オレは…スーパーロリータだあ!!」

「さあ跪け! 跪いて命乞いをすれば許してやるぞ!!」

「このイケ————ハツ!?」

「10円、10円、10円ンンンン!!」

「お前たちが戦う意思を見せなければ俺をこの星を破壊尽くすだけだあ!!」

……うん

ぐだ子 「……地球が血祭りになる未来しか見えない」

ロマン 「だからこそ、地球が消滅しない為にも僕達は頑張らないといけないのさ」

ダ・ヴィンチちゃん 「まあ色々とやることが山積みではあるけど、今日のパーティーは参加するからね。楽しみにしているよ」

ぐだ子 「よっしゃ、任せて置いてよ!!」

おおし燃えてきた

ぐだ子 「さつそく、パーティーの準備に向かう。後に続けロリイ」

オルガロリー「誰が、ロリイよ。この馬鹿ぐだ子!!」バシツ

こうしてパーティーの準備は進んでいくのであつた。まさかパーティーであんなことになるとは、今のぐだ子たちには想像もつかなかつたのであつた

# クリスマスパーティー準備編 後編

ぐだ子「ふう、出来たつと」

いやあ疲れたなあ、まつたく所長め私が舞空術が使えるからって、扱使うんだから。  
オルガロリー「なによ、文句でもあるのぐだ子」ジロツ

し、しまつた。いるの忘れていたわ

ぐだ子「そ、そのような事があろうはずがございません!!」アセアセ

……ドキドキ

オルガロリー「ハア……まあいいわ。ここはもういいから、あんたはベジータたちの  
ところに行つて、料理の状況を見てきて。私はスタッフたちにパーティーを始めるから  
集合するように伝えて来るから」

ぐだ子「了解しました!」(へへ)

オルガロリー「……それじゃあ、頼んだからね」スタスタ

……さてと

ぐだ子「そこで隠れて何しているのBBちゃん?」クルツ  
物陰で隠れているBBちゃんに話しかける

BB「もうセンパイたら、酷いですね。そこは気付いていたとしても、気付かない振りをしてくれてもいいじゃないですかー」ブンブン

ええー

ぐだ子「わかつたよ。次からはそうするよ。それでどうしたんよ?」  
こんな風に話しかけてくるなんて、今までなかつたし、なんだか嫌な予感がするんだよね

BB「むう、今酷い事考えてましたね。BBちゃん、泣いちゃう」えーん  
ハア……しゃないな

ぐだ子「ごめんBB。それでどうしたの? ブロリーたちに何かされた?」

BB「いえ、別にあのサイヤ人たちに何かされた訳じゃないですよ」  
……ないんかい!!

ぐだ子「じゃあ、どうしたのよ?」  
他に何かあるかなあ……うーん

BB「もうしようがないですね。はいこれクリスマスプレゼントです(ハート)」  
そういうて The プレゼントという感じの箱を渡せられた。

BB「今日でセンパイともお別れですしね。今まで頑張ってきたセンパイにBBちゃんからの特別プレゼントです??」

… BBちゃん

ぐだ子「これ開けたら爆発しない?」

すんごく怪しい

BB「ズコツ

BB「そんな事しません!!」

ほんとかなあ?

BB「そんなに言うのでしたら、もう良いでよーだ。センパイのばーか!!」

あつやば

ぐだ子「ごめん、ごめん。ふざけすぎたよ。ありがたく貰うから許してよBBちゃん」

流石に言い過ぎたしね

BB「いいんですか?開けたら爆発するかも知れますよ?」ジトオ

ぐだ子「別にそれでもいいの。BBちゃんからプレゼントなら例え爆発したって嬉し  
いよ」

まあ後で仕返しはするけどね♪

BB「センパイ…やっぱし変人ですね」

ええ、なんでき!?

BB「さてと、渡したかつた物も渡せましたし、これで失礼しますね。それじゃあま

たパーティーで」シユン

そう言い残してBBちゃんは姿を消した。

ぐだ子「……」パカツ

箱を開けるとそこには、タブレットが入っていた。

ぐだ子……つと、ベジータたちの所に行かないとい

そうしてベジータたちが待つ、キッチンへと向かうのであつた。

♪BGM『ベジータ様のお料理地獄♪「お好み焼き」の巻♪』

ベジータ「熱唱中」トントン、ザクザク

……が、我慢よ。我慢するだ私

ぐだ子「…」ガクガクブルブル

マルタ あらどうござれましたかマヌタリ?

我慢 我慢

ベジーナー熱唱中】シエウシエウ

だ、駄目だ。もう限界笑つちやう

笑いそうになつた、その時

マルタ「うつきいベジータ!!」ブン

ベジータ「ふおおう!?」ドン

マルタさんが、ベジータをぶん殴つて止めてくれた。  
た、助かつた。

ぐだ子「ありがとうマルタの姉

マルタ「ん?」ニコツ

ぐだ子「——マルタさん

(= ; Δ.) ガクガクブルブル

マルタ「……まあ良いでしょ。それでどうしたんですかマスター?」  
と、言うわけで説明するのであつた

ぐだ子「——という訳で、料理はどうです?」

マルタ「ええ料理なら問題ないですよ。予定通り間に合います」

ホツ良かつた。良かつた

ぐだ子「それじゃあ私は——」

マルタ「いい機会ですし、マスターも何か作りませんか?」

ぐだ子「——アディオスアミゴー!!」ダッ

全力で逃げるのであつた

マルタ「ハア…まつたくあの娘は、こっちの気持ちも考えて欲しいものね」

マルタ「まあしようがないか、さてと続きを……つてベジータあんた何サボつてるのよ。時間がないんだから早くしなさい!!」

ベジータ 「俺になんか恨みでもあるですかあ？」

ベジータ、マルタにぶん殴られて、壁にめり込む。確認

10

•

「だ子」ハアハア

な、何とか逃げ切れた。まつたく料理なんて出来る人に任せておけばいいんだよ……さてと、予定まで少しあるしどうしたものか？

ぐだ子「……」うーん

??  
—こんな所で会うとは奇遇だなマスター—

その声は！

ぐだ子一り、李書文先生

ゲー八極拳の達人!?

李書文「先生は辞めぬか、マスターにはピッコロの奴がおろうよ」  
まあそうなんだけど

ぐだ子「でもさあ、八極拳を教えてくれたんだから、私にとつては先生だよ」  
まあ、戦いの中で、身体で教えてくれたんだけどさ

李書文「阿々！ そう言うことにしておこう」

ぐだ子「そ、それで先生はどうしたの？」

李書文「何、ピッコロに最後の勝負を挑んで負けた所よ」

そうか…負けたのかあ。つてええ!?

ぐだ子「そんなあつさりと負けたとか言わないでしょ普通!!」

一瞬聞き間違えたかと思つたわ

李書文「なあに、マスターに勝てなかつた儂が、マスターよりも強いピッコロに勝てる道理もないであろうよ」

……つう

ぐだ子「あれは李書文が宝具を打たなかつたから、私が勝てただけで、宝具を打たれていたら、今頃私は……」

昨日、最後の勝負として、私と李書文は互いに全力で戦つた。結果としては私の勝利だつたけど、李書文は宝具を打たなかつたのであつた

李書文 「クハハハハ！」

ぐだ子 「何で笑うのさ!?」

李書文 「すまぬ、すまぬ。そんな事を気にしておるのか思うと……阿阿阿！」

よつぽどツボにハマつたのか。こんなに笑っている李書文を見たのは……うん、良くあるわ。鬪つてる時とかめちゃくちや笑顔だわ

ぐだ子 「そんなに笑うことないじやん」 ちえつ

李書文 「まあ、そう拗ねるでない」

ぐだ子 「だつて、いじめるんだもの」 ムスツ

李書文 「……昨日の仕合、覚えておるか？」

ぐだ子 「うん。覚えてるよ、というかあれは忘れられないから普通!!」

李書文 「儂も同じよ。一撃、一撃。相手を仕留める一撃を打つていた。それをお主は見事に躱し、捌ききつた」

李書文 「仮に宝具を打つていたとしても、お主であれば、何とかしていただろうさ」

ぐだ子 「李書文……」

李書文 「儂はあの戦いに満足しておる。お主もそうであろう?」

ぐだ子 「コクン

李書文 「ならばそれ以上言うこともないな」

李書文「……では僕はそろそろ行くとしようか」

…つう!?

ぐだ子「待ってよ、せめてパーティーぐらい出てつてよ」

こんな別れるにしても、まだ心の準備だつて……

李書文「無論よ。マスターへの仁義は通すさ」スタスタ

そういうつてこの場を離れる李書文であつた

(地獄の) クリスマスパーティー編 前編

ピッコロ 「ふざけるのも大概にしろ!!」

ブロリー 「うるせえ!!」 ブン

ピッコロ 「クソマア!?」

うわあ!? .....びっくりした

ぐだ子 「ど、どうしたんですか、ピッコロさん?」

一体どうしたんだろ? .....まあどうでもいいか♪だつて.....

??? 「やめて下さい!! 会場があ!! 会場そのものがアア!!」

テデーナン☆

.....ほらね。

あーあカルデアに穴が空いちゃつたよ。ま、無礼講だよね。無礼講  
オルガロリー 「なにしてるのよ、さつさと止めなさいバカぐだ子!!」 ベシツ

あ痛て。 しようがないなあ

ぐだ子 「悟空」

悟空 「オメエの出番だ.....」 チラツ

孔明（まつたくサイヤ人は大変だな）

ベジータ「スタッ

あつ、ベジータがアップを始めるよ

悟空「……孔明!!」ビシツ

ファツ!?……マジかよｗｗｗｗｗ

孔明「ポロッ

（煙草を落とす）

ベジータ「ダニイ!?

そうやつて驚いているけど、ガツツポーズをしている姿がとても印象的でした。あれこれ作文!?

ブロリー「その程度のパワーで、この俺に挑むのかあ?」

……つとふざけている内にどんどん孔明先生に近づいていくブロリー。これはマジだね

孔明「ブンブン

まじでやる<sub>毅</sub>氣なのが分かつたのか、必死に否定している先生

パラガス「可哀想だが、孔明お前はブロリーに八つ裂きにされる運命なのだ」(トオイ

メ)

黒髪「せ、拙者孔明氏の事忘れませんぞ!!」

李書文「同郷の者として、辞世の句を詠んでやろう」

メドウーサ「ペラペラ

(巻き込まれないように端で読者をしている)

コイツら助ける気Zeroかよ?!

……さ、流石に可哀想だな。よし!!

覚悟を決めた私は孔明の肩を叩くのであつた。そして――

ぐだ子「孔明」ポン

孔明「パアアア

ぐだ子「ドンマイ♪」ニッコリ

……恨むなら悟空を恨んでね♪

孔明「ガツデム!!」

その後マルタの姉御とオルガロリーちゃんにしつかりと怒られるのであつた。

……

……

……

この後も王様ゲームで、ブロリーが血祭りにあげたり、プレゼント交換会でBBちや

んが科学者（タコ）からプレゼントを貰つて暴走したり、悟空がブロリーたちの分まで飯を食つてボコボコにされたり、ふざけて召喚をしたらエレちゃんが来ちゃつたりとしたけど、何事もなくパーティーは進んでいくのであつた。

エレシユキガル「私の出番つてこれだけなのかしら!!」

ハヤシ、マサル

6

• • • •

そして楽しい時間も過ぎていき

バラガス「遂にこの時が来たのです」

著書で「二れ二二義は異之ノ之不一

李書文先生

「仕合でないか」「おおこんな所におつたかマスター：仕合でないか」「なに八極拳を学びたい？…では仕合か」「何か悩みかマスター：ふむ成る程。ならば仕合か」

あれ？ 戦つた思い出しかないんだけど…気のせいだよね

「湿っぽい別れは、ちゃん嫌いですの」

BBちゃん……

「はーいセンパイ（ハート）」「私タコつて大嫌いなんですよね」「セ・ン・パ・イ??」「なーんて嘘でーす」キラツ

……何でだろ。からかわれた記憶しかない思い出せないんだけど、疲れてるのかなあ?

李書文 「…達者でな」スツー

BB 「それでは皆さん。さよーなら（ハート）」スツー

……こうして二人は退去して逝くのであつた

ぐだ子 「ありがとう二人とも。私…忘れない!!」グツ

オルガロリー 「ねえ…あれって」ヒソヒソ

マルタ 「しつ…無理やり、良い話にしようとしてるのでしそうね」ヒソヒソ  
そこヒソヒソ話しない!!

孔明 「では、マスター。私もそろそろ退去するとしよう」

ぐだ子 「孔明先生……」

孔明 「ツウ

(召喚されてから幾星霜。<sup>化物共</sup>サイヤ人が何かをする度に胃が痛いくなる。マスターが強く

なる理由は分かるが、修行する度に胃が更に痛くなる。そしてこれをどう時計塔に報告するかを想像するだけで、何度も吐きそうになつた事か。だがそれも今日で終わりだ。終わりなんだ!!)

な、泣いてる。あの孔明先生が泣いてるなんて!?

そんなに別れるのが辛いのかなあ……なら

ぐだ子「孔明先生」ポン

ぐだ子「大丈夫ですよ、またきっと会えるよ!!」グツ

孔明「」スツー

私の言葉がよっぽど嬉しかったのか、言葉もなく泣きながら退去して逝く孔明先生であつた

# (地獄の) クリスマスパーティー編 中編

科学者「コンピューターが弾き出しデータによりますと、そろそろ退去の時間です  
じゃ」ウヘヘ

ぐだ子「タコ……」

……うん

ぐだ子「特にないな」

特に語ることはないよね♪

科学者「うわへへ!?

ぐだ子「じゃあね：私貴方のことわすれ——ダ・ヴィンチちゃん「いやいやちょっと  
待つてよぐだ子ちゃん!!」——ないね。バイバイ

ロマン「スルーして進めるのかい!!」

ぐだ子「ええー」

：つち。やつぱりダメかあ

オルガロリー「気持ちはわかるけど、最後なんだからしつかりなさい」

(、・。・、)

ぐだ子「ぶつちやけ、この茶番よりもプロリーの活躍の方がみんな見たいだらうから、  
適當でも良いじやん」ボソリ

マシユ「せ、センパイ!？」

おつと遂本音が、いけない、いけない  
ティイクツー

ぐだ子「タコ……」

「うわへへ」「コンピューターが弾き出したデータによりますと……」「氣をお沈め下さい  
ませ」「うわへへ」「ですじや」

うん、正直タコ科学者の発明品に助けられた思い出よりより、大変な目にあつた思い出しか  
出てこないわ

科学者「マスター：コレをですじや」スツ

なんだろう、見覚えあるんだけど

パラガス「ま、まさか。もしそうだとしたら：何もかもおしまいだあ」(( ； )

(( )) ガクガクブルブル

パラガスが震えてる。ま、まさかね(

ぐだ子「いちおう聞いておくけどこれって……」

科学者「コンピューターが弾き出しデータによりますと、プロリーをマスターの氣で

自由自在にコントロールする装置ですじや」ウヘヘ

ふーん、ブロリー制御できる装置ねえ……つてファツ!?

ぐだ子「マジで!」

科学者「マジですじや」

パラガス「ええええ!?」（口。）

ブロリー「親父イ、ザマア WWW」

ベジータ「ハハハハ、こりや傑作だぜ——つてふおおおう!?

ピュウウ——ドオオオオン!!!

ブロリー「お前が笑うな」グイグイ

ベジータ「ご、ごめんなさい」

あれはベジータが悪い

科学者「マスターではさらばですじや」ウヘヘ

ぐだ子「うん、こつちこそ色々とあつたけど会えて良かつたよ」

まあ終わり良ければなんとやらだね

科学者「うわへへ」スツー

ダ・ヴァインチちゃん「ホントよくやつてくれたよ」ボソリ

うん? 今何か聞こえた気がしたんだけど、気のせいかな?

パラガス 「こ、このままでは、俺の出番そのものが、何もかもおしまいだあ。な、なんとかしなければ」

パラガス 「……」 ポク 「……」 ポク 「……」 ポク 「……ハツ」 チーン

パラガス 「腐☆腐」 ニヤリ

ゾクツ。な、なんだ嫌な予感がする

パラガス 「そこの大人のお姉さん」 ビシツ

スタッフA 「わ、私ですか?」 ビクツ

凄い嫌そうな顔してるよ。可哀想スタッフさん

パラガス 「O f f C o u r s e !! ..... あなたのようない宇宙の中でも一番顔が整つた美しい大人のお姉さんよ。息子です何なりとお使い下さいませ」 腐☆腐

(独自のステップで、息子をアピールするパラガス)

スタッフA 「N O T h a n k !!」 ゲシツ

パラガス 「D o o r !?」 すつてんころりん

そう言つて蹴りを繰り出すスタッフさん.....ナイスキック!!

そうして転がつていくパラガス

そして.....

パラガス 「貴女もいかがかなメドウーサ?」 腐☆腐

しかし転がつた先に居たメドウーサにアピールするパラガス  
メドウーサ「……」

うわあ汚物を見るような目で睨まれているよ

パラガス「腐☆腐」ドヤアアア

メドウーサ「……丁重にお断りします」ブン

全力のパンチで撃退するメドウーサ

パラガス「あーう」

ビュウウーー

吹つ飛ばされるパラガス。自業自得だね♪

そして吹つ飛ぶパラガスの先にはマルタの姉御が：つてこのままいくとぶつかって  
T O L O V E る展開待つたなしでh——マルタ「ハレルヤツ!!」

鉄 拳 聖 裁

……うん、藤田作品の間違いでしたね

パラガス「」チーン

パラガスに合掌

オルガロリー「それでパラガス。あんた何のつもりなのよ?」

あ、それ聞くの。どうせろくでもないと思うんだけどなあ……

パラガス「腐☆腐。そこまで言うのでしたら」教示しよう」ニヤリ  
まあ話半分で聞いておこう

「先程マスターが科学者からブロリーの制御装置を貰つておりました」

パラガス「このままでは、この俺の出番という出番が失くなつてしまふ」  
まあそうなるのか？

……うーん パラガス「ならば最後に良い思いをしてやろうというわけDA」ドヤア

ぐだ子「まあ一理あるかな?」

ロマン「確かにバラガスの気持ちは分かるかな」ウンウン

さんを堕としてしまえー！」

調子に乗りやがつて、まあ最後だしな

「ぐだ子、一と二の訳なんだけど、皆さんどうですかね？」

女性一同「お断りします」

ですよねー

パラガス「このまま退去することになれば、俺の出番は永遠に消滅してしまう……なんとしても出番を手にしなければ」ブルブル

……パラガス

パラガス「こーなつたらもーマスターで妥協しよう!!」

ああ？ 今なんつていつたコイツ？

パラガス「マスター」

ぐだ子「……なにさ？」

パラガス「こうして出会えたのは私とマスターの間に運命の糸が絡み合つたからこそです!!」

ぐだ子「……それで？」

パラガス「ならばこそ、こうして出会えた奇跡を共に分かち合おうではありませんか！」

ぐだ子「……端的に言うと？」

パラガス「息子です。何なりとお使い下さいませ」腐☆腐

……成る程ね。つまりマルタの姉御やメドウーサに振り向いて貰えないから、私で仕

方なく妥協してやるよと言うことかあ。そうか、そうか。ふーん

♪ BGM 運命の日、魂 VS 魂♪

⋮

ぶつ

バテガス一うん?

ぐだ子「うわああああ  
!!!

ベジータ」「チラツ

「チラツ

ピッコロ「ぐだ子…!?」

ぐだ子「…」シユイーン、シユイーン

遂に、遂にぐだ子の怒りが、限界を越えたのか？